



次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

冬だというのに、ここのとこも暖かい日が続いている。程よい陽光が窓辺に差し込んできて、心地よい。目を閉じると、私の中で何が目覚めるような感じさえしてくる。そんなとき、ふと我に(①)ると、時間とはなんと無慈悲なのか。じきに日が暮れ、私からこの心地よさを奪い去っていつてしまおう。そんな思いが頭をめぐる。その後、今度はこの「一瞬」を十分に味わうために私は時間にしがみつこうとする。こんなことが近頃多くなった。この状態に陥るのは何も冬の最中とはいえ、暖かい日が続いているためではない。これは私の「感覚」の問題なのである。年を経るごとに時間の感覚は変わっている。以前より確実に一日が早く終わり、(②)のように一年が過ぎ去っていくようになった。今年、元旦を迎えても、昨年の正月から「一年」という時が経過したようには感じる事ができなかった。これにはあたかも時計の針をくるわされたような気がした。何者かによるトリックであるときさえ思い、それから脱け出す術はないものかと思った。

子ども時代、一年が果てしなく長く感じられたあのころ。あの感覚を取り戻したいとひそかに願うのは私だけであろうか。

(1) (①)・(②)にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えよ。

①
②

(2) ③線部「一年」とは、どのようなことを表しているか。あとのア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア 冬至以降から起算した一年
- イ 一年という客観的な時間
- ウ 「私」の時間感覚での三六五日

--

(3) ④線部「私だけであろうか」とあるが、この後に省略されている言葉としてあてはまるものを、あとのア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 確信は持てないが。
- イ 間違いない。
- ウ いや、そうではない。
- エ 返事をしてください。

--

(4) 今年の元旦の「私」の時間感覚について、比喻で表現している一文を抜き出し、初めの五字を答えなさい。

(5) この文章に述べられている内容として正しいものには○、誤っているものには×で答えなさい。

- ア 子ども時代の「私」は、夏休みが過ぎていくのを名残惜しく思った。
- イ 時間の感覚は人により様々である。
- ウ 「私」は心地良い気分今年元旦を迎えた。
- エ 「私」の時間感覚の変化は、年を重ねたことによるものである。

ア					
イ					
ウ					
エ					